

実践研究

## 体育科 実践研究部

研究主題

令和の日本型学校教育

体育科における、個別最適な学びと  
協働的な学びの実現

北小学校	細田 一樹（リーダー）
小手指小学校	佐々木 祐
安松小学校	川西 良輝
林小学校	和氣 健二

担当指導主事

長谷川雅一

## 研究主題について

### 【令和の日本型学校教育】

～体育科における個別最適な学びと協働的な学びの実現～

小学校学習指導要領解説（体育編）では、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質能力の育成することが目標とされている。この目標の実現に向けて、令和の日本型学校教育を着実に実施することが求められている。そこで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指すことにした。

## 児童の実態

- ① 児童の運動能力の二極化
- ② 体育における成功体験の不足
- ③ 他者との関わりで成長する経験の不足



## 研究の仮説

### (1) 個別最適な学び

- ① 児童が主体的に問題解決できるような**場の設定**



課題解決に必要な練習方法や場を理解し、体育における成功体験を味わいながら、資質・能力を高めることができるのではないか。

### (2) 協働的な学びの充実

- ② 多様な活動の中で運動の楽しさを実感できるような**学習過程の工夫**



児童は自信をもって友達への励ましやアドバイスを行い、他者と関わりながら、資質・能力を高められるのではないか。

## 授業実践Ⅰ

単元名 「はなて!シュート!みんなでおばけをたおして北小を守ろう!」

(ゲーム「ボールゲーム」) 小学校第1学年

### 仮説に対する手立て①

- ・児童が技能の伸びを実感できる  
スモールステップの場づくり
- ・一人一つ割り当てた教具の活用



### 成果

・場を三つに絞ったことで、84%の児童が技能の高まり実感しながら取り組めた。

(授業後)

- ・一人一個段ボール(教具)を用意したことで、豊富な運動量が取れ、それに伴って、技能が向上した。授業後では、91%の児童が蹴ることの楽しさを感じられた。

### 仮説に対する手立て②

- ・メインゲーム中にチームの友達の試技を見合う場面を設定することで、児童が視点を明確にして話合えるチームタイムの設定



### 成果

- ・授業前、体育の授業で、みんなと一緒に考えたり、話し合ったりすることが楽しいと感じた児童が77.2%だったが、授業後は83.3%と上昇した。

## 授業実践Ⅱ

単元名 みんながフリーでシュート!~ボールを持たない人が試合を制する?~

(ボール運動「ゴール型」) 小学校第5学年

### 仮説に対する手立て①

- ・基本的な技能を習得でき、練習方法の提示の役目も果たす場の設定
- ・児童が思考・判断しやすいルールの工夫



### 成果

- ・ゲームで使える実践的な技能が高まった。
- ・単元の後半に、個人・チームの課題に応じて児童が練習方法を発展させていた。
- ・児童が自分・チームの課題を把握して主体的に追及するようになった。

### 仮説に対する手立て②

- ・メインゲームの課題を解決するためのチームタイムの設定



### 成果

- ・チームや個人の課題に気づき、その課題に合った練習を個人・チームで行ったり、作戦を考えたりできた。
- ・よい雰囲気の中で話し合いが行われ、自信を持って友達にアドバイスできる児童が増えた。

## 授業実践Ⅲ

単元名 「ディスクを繋いでゴールを目指せ!~紫極のアルティメット~」

(ボール運動「ゴール型」) 小学校第6学年

### 仮説に対する手立て①

- ・ボールよりも技能差が出にくい教具(ドッジビー※1)を使用
- ・児童が自己選択・自己決定できるように精選した感覚づくり運動

※1



### 仮説に対する手立て②

- ・知識・技能の向上と共に、児童同士の関わりの充実をねらった学習過程の工夫

態度

知・技

思・判・表

知・技

態度

知識・技能を序盤に設定⇒単元を通して知識・技能が向上

知識・技能の習得によって、児童のアドバイスや関わりが増加

メインゲームを先に行う⇒チームタイムで作戦を立て、練習する必要感 UP!



### 成果

- ・「ボール運動は好き」と回答した児童 61.3%⇒93.5%と上昇
- ・知・技「基本的なボール操作」「ボールを持たないときの動き」が97%の児童が向上

## 授業実践Ⅳ

単元名「リズムカルに走り越そう!ノースハードル走 2024」(陸上運動「ハードル走」)

「リズムカルに走り越えよう!みんなで目指す NEW RECORD!」(陸上運動「ハードル走」)

小学校第5・6学年

### 仮説に対する手立て①

- ・身につけたい技能に応じた場の工夫
- ・全員が粘り強く課題に取り組める場の設定



### 成果

- ・感覚づくりの運動を充実させたことで、主運動へのスムーズな移行ができた。また、教具を選べる学習環境を整備したことで、課題解決に向けた思考が広がった。

### 仮説に対する手立て②

- ・同じめあてをもつ児童同士(同質グループ)で取り組む課題別学習
- ・技能の異なる児童同士(異質グループ)で編成したチームで取り組むチーム対抗戦



### 成果

- ・課題別学習では、友達と課題を明確にして前向きに取り組むことができ、チーム対抗戦では、他チームとの競争を楽しむために、チームの友達と必要感のあるアドバイスをし合うことができた。
- ・授業後、ハードル走の学習で楽しかった取り組みに同質グループによる練習、異質グループによる記録会と記入した児童が83%であった。

## 研究の成果

### (1) 児童が主体的に問題解決できるような場の設定

・感覚づくりの運動と教具の精選をしたことで、主運動にスムーズに移行することができたことや、自己に合った運動を選択できる場があることで、やる気の継続や技能面の向上が見られた。また、グループ学習（同質・異質）の中で練習したり、練習内容の相談をしたりすることで「もっとうまくなりたい」という前向きな気持ちをもちながら、意欲的に練習や試合に取り組むことができた。

【運動は好きですか】

	実施前	実施後
好き	54.8%	83.4%
まあまあ好き	32.3%	6.7%
あまり好きではない	9.7%	6.7%
好きではない	3.2%	3.2%

### (2) 多様な活動の中で、運動の楽しさを実感できる学習過程の工夫

・感覚づくりの場を児童と話し合いながら考えたことで、より必要感をもって運動する姿が見られた。

・チームタイムを課題解決のための時間と位置づけることで、話合うだけでなく、体を動かして練習する等、活動に広がりが見られた。

## 研究の課題

・実施前と実施後で「好き」と答える児童の割合は増えたものの、「好きではない」と答える児童の割合はあまり変わっていない。また、攻めと守りを分ける、的に向かって順番に蹴る等、児童が運動中に思考・判断できるように運動の強度を調整したことで、運動量が減ったように見えた。

## 今後の取り組み

・好きではないと感じている児童が何に不安を感じているのか、丁寧に聞き取り、授業に反映させる。

・児童が課題解決のために「思考する時間」を確保しながら、発達段階に合った技能を身に付けられるように単元計画を立てる。

専門研究

## 算数・数学科 専門研究部

研究主題

算数科における個別最適な学びと  
協働的な学びをつなぐ授業づくり

和田小学校

岡部 大輝

指導者 十文字学園女子大学

教授 日出間 均

担当指導主事

藤井 天

昨年12月に文部科学大臣から中央教育審議会に対して次期学習指導要領に関する諮問がなされ、それを受けて、次期学習指導要領に向けた議論が進められている。特に、問題解決能力の育成を目指すとき、子供たちの「問い」の連続を意識した指導により、主体的・対話的で深い学びに繋げることである。そのために、算数科の授業の中で、次のことを手立てとして授業を進めることで、子供たちが「問い」を持ちながら学習を深めていくことができると感じている。

- 既習事項と未習事項を明らかにしていく活動から発生する「問い」
- 自力解決後の練り上げにおいて、子ども同士の対話的な学びの中で発生する「問い」
- 一連の解決過程を振り返る活動を通して発生する「問い」

これら3つの「問い」を軸として授業をつくることで、子供たちの数学的な見方・考え方が変容していくことが成果として出ている。

所沢市立和田小学校教諭の岡部大輝氏は「算数科における個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業づくり」のために3つの手立てを取り入れている。

1つ目は、学習環境が整っており前時の選択できる学習形態が生かされていた。本時もよくできていた。

2つ目は友達と意見交換する場を作っていた。しかし、問題解決能力の育成を図りたいのであれば、2～3分の自力解決後の見通しの時間を大切にしたい。「見通しの立たない人はいますか。」「先生と一緒に考えたい人は前に来て下さい。」くれぐれも前に来た子ができない子とならないように配慮する。先生と一緒に考える所に工夫の意味がある。

3つ目は、自分のペースで学習を進められるようにしていた。単元は同じにし、進度を自由にして扱えば更に良い。 $2 \times 3 + 4 \times 6$ は、どのようにアレイ図を用いたかを問う。つまり式に表すだけでなく、式を読む問題などが考えられる。今後、どのような発展問題を与えるかを研究することに期待したい。

## I 研究主題

「算数科における個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業づくり」

## II 主題設定の理由

現行の学習指導要領（平成29年告示）では、児童が「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という観点から、主体的・対話的で深い学びが重視されている。特に算数科では、論理的思考力や数量感覚、図形的認識を育むために、児童が自らの考えをもとに学びを深めたり、他者と比較・共有・協議したりする機会が求められている。

その中で、児童一人一人の理解の進度や興味・関心、つまずきの内容は多様であり、個別最適な学びを実現することは、学習の有効性と児童の自己肯定感を高めるうえで必要不可欠である。また、児童が他者の視点を取り入れ、自分の考えを再構築するためには、協働的な学びを実現することも重要である。協働的な学びが進むことで、児童は自分の考えを持ちながらも、それを他者との対話によってさらに発展させていくことが可能となる。

私は、「児童の学びを深めるためには、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが重要である」と考えている。それは、個の学びが一方通行になりがちなところに、協働的な学びを加えることで、児童は単なる自己完結的な理解にとどまらず、他者の考えや意見を取り入れることで、より豊かな理解を得ることができると考えるからである。

そのため、本研究部では、個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業が実践できれば、児童に対し、数学的に考える資質・能力を一層育成することができると考え、研究主題を「算数科における個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業づくり」と設定した。

## III 研究の内容と方法

### 1 研究の方向性（個別最適な学びと協働的な学びをつなぐための具体的な手立て）

#### (1) 学習形態の工夫

「自力解決」場面において、児童が課題解決の方法を選択できる学習環境を整える。基本的に、児童が自分でやってみたと「①他のやり方がないか考える。②友達と意見交換をする。③先生と一緒に考える。」の中から、誰かの指示で動くのではなく、自分の達成状況に応じて自分に適した学習形態を選択できるようにする。

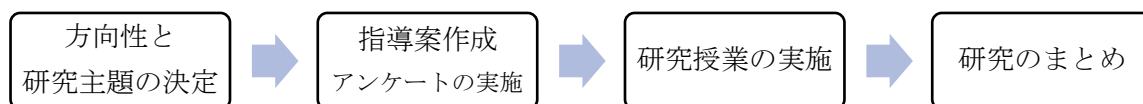
#### (2) 適応問題の工夫

「適応問題」場面において、自由進度学習を取り入れる。自由進度学習では、児童一人一人の興味・関心を大切にするため、教科書の基本問題やプリントでの学習、ドリル学習（計算ドリル）、ミライシード等のWebアプリを活用した学習の中から自由に選択できるようにする。

#### (3) 振り返りの充実

①「わかったこと・できたこと」②「解決方法」③「自分の変化」④「学び・生活とのつながり」⑤「新たな問い」の5つの視点を提示し、振り返る内容を明確にする。それにより、児童が本時の学習内容を自覚するだけでなく、これまでや今後の学習内容とのつながりを意識できるようにする。また、振り返りを充実させることで、児童の考えが可視化されるので、それを見取り、児童の学習状況に合った指導を行う。

## 2 研究の方法



## IV 実践事例

### 1 第2学年 単元名「100をこえる数」

#### (1) 研究主題とのかかわり

個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指して、一単位時間の授業モデルを工夫し、指導の個別化と学習の個性化を効果的に取り入れていく。本時の指導にあたっては、授業の後半に個別で問題作成をする活動を行い、児童が主体的に授業に取り組むことができるようにする。

また、振り返りを、単に学習内容がわかったという感想だけでなく、過去の学習内容や経験、生活とのつながりなどと結び付けた内容を記述するよう促していく。それにより、児童が本時の学習内容を確認するだけでなく、これまでや今後の学習内容とのつながりを意識できるようにしていく。

本単元の指導にあたっては、数の理解を深め、数の感覚を豊かにするために、実際にブロックを数える活動を取り入れることで、学習内容の系統性を生かしたきめ細かな指導を工夫していき、児童の基礎基本の定着をはかっていきたい。また、具体物と数字を位取り表の中で一緒に操作することで、同じ数字が並べられる場所によって違う量を表すことをとらえられるようにする。

#### (2) 単元の目標

100をこえる数について、そのよみ方やかき方を理解し、10や100を単位として数をとらえたり順序や大小、加減計算の仕方を考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

#### (3) 単元計画 (9本時)

時間	主な学習活動
1	・100をこえる数の表し方や仕組みを調べていくという単元の課題をつかむ。 ・10や100のまとまりに着目して、100をこえる数の数え方やよみ方を理解する。
2	・3位数について、十進位取り記数法に基づいて、数字で表したり、数の構成を説明したりすることができる。
3	・空位のある3位数について、十進位取り記数法に基づいて、数字で表したり、数の構成を説明したりすることができる。
4	・十進位取り表を用いて、10を単位とする数の構成や分解についてまとめる。
5	・100のまとまりをつくり、十進位取り表を用いて数える操作を通し、1000という数を知り、1000という数の構成や数の系列をとらえることができる。
6	・数直線の目盛りの大きさに着目し、1000までの数の系列や順序を理解することができる。
7	・十進位取り記数法の仕組みをもとに考え、3位数の大小を比較することができる。
8	・練習


⑨	・十進位取り表を用いて、(2位数) + (2位数) で答えが3桁になるたし算ができる。
10	・十進位取り表を用いて、(3位数) + (3位数) $\leq 1000$ やその逆のひき算ができる。
11	・数量の相等関係や大小関係を、等号や不等号を使って式に表すことができる。
12	・十進位取り表を用いて、(2位数) + (2位数) で答えが3桁になるたし算ができる。

(4) 本時の目標

十進位取り表を用いて、(2位数) + (2位数) で答えが3桁になるたし算ができる。

(思考力・判断力・表現力等)

(5) 本時の展開

学習活動 (○) 予想される児童の反応 (・)	留意点(・)【評価】手立て (→)												
<p>○問題の把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>プリンとあめを買おうと、 何円になりますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つのおかしの値段を合わせるので、たし算です。</li> <li>・式は <math>80+30</math> です。</li> </ul> <p>○解決の見通しを立て、めあてをもつ。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">かだい</span> ブロックや図をつかって、けいさんのしかたを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法の場面であることを確認し、<math>80+30</math> と立式できるようにする。</li> <li>・児童が「ブロックや図を使えば考えやすそうだ」という見通しを持てるようにしたのち、めあてを設定し、共有する。</li> </ul>												
<p>○自力解決</p> <p>① 計算ブロックを使って考える。</p> <p>□□□□□□□□ + □□□</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2、3…とブロックを数えると11個。だから、110。</li> <li>・ブロックが11個あるから、110。</li> </ul> <p>② どのように計算したのか図や言葉で計算手順をノートにかく。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">百の位</td> <td style="width: 33%;">十の位</td> <td style="width: 33%;">一の位</td> </tr> <tr> <td></td> <td>□□□□□□□□</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>+</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>□□□</td> <td></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10が8個と10が3個で、10が11個。10が10個で100だから、100が1個で、10が1個。だから、110。</li> </ul> <p>○話し合い。自分の考えを発表する。</p> <p>① ペアで考えを説明し合う。</p> <p>② 全体で話し合う。ブロックや図を使って説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックを数えると11個だから、110。</li> <li>・<math>80+30</math> の0をとって、<math>8+3=11</math>。11に0をつけて110。</li> </ul>	百の位	十の位	一の位		□□□□□□□□			+			□□□		<ul style="list-style-type: none"> <li>・すらすらと答えが出た児童には、どのように考えたのかについて説明できるように促す。</li> <li>・自力解決が進まない児童には、ブロックを使って、一つずつ足していくところから答えを導くよう促す。</li> <li>・式は理解できるが、計算方法に戸惑っている児童には、位取り表とブロックを使って考えるよう促す。</li> <li>・ノートだけでなく、実際にブロックを操作しながら、説明し合うように促す。</li> <li>・いろいろな考えを認めつつ、既習の計算に帰着するよさから、ブロックの個数を計算する考えに焦点</li> </ul>
百の位	十の位	一の位											
	□□□□□□□□												
	+												
	□□□												

- ・ 80 はブロックが 8 個、30 はブロックが 3 個だから、 $80+30$  はブロックが  $(8+3)$  で 11 個。ブロックが 11 個だから 110。

○新しい素材を知り、計算方法を考えて、答えを求める。

もんだい ラムネとチョコを買うといくらですか？

- ・ 2 つのおかしの値段を合わせるので、たし算です。
- ・ 式は  $86+23$  です。

○自力解決。 $86+23$  の計算の仕方を考える。

① 計算ブロックを使って考える。

十の位 □□□□□+□□□□□□□

一の位 □□□□+□□

- ・ 十の位は 1、2、3…とブロックを数えると 10 個。だから、100。一の位は、9 個だから 9。合わせて、109。
- ・ 86 は十の位のブロックが 8 個と一の位のブロックが 6 個。23 は十の位のブロックが 2 個と一の位のブロックが 3 個。だから、 $86+23$  は十の位が  $8+2$  で 10 個。一の位が  $6+3$  で 9 個。だから 109。

②どのように計算したのか図や言葉で計算手順をノートにかく。

百の位	十の位	一の位
	□□□□□□□□	□□□□□□
	+	+
	□□	□□□

- ・ 10 が 8 個と 10 が 2 個で、10 が 10 個。だから、100。1 が 6 個と 1 が 3 個で 1 が 9 個。だから、 $6+3=9$ 。合わせて 109。

○話し合い、自分の考えを発表する。

①ペアで考えを説明し合う。

②全体で話し合う。ブロックや図を使って説明する。

- ・ 十の位のブロックを数えると 10 個だから 100。一の位のブロックを数えると 9 個。合わせて、109。

化していく。

→ブロックの個数を計算する考えを唱えながら、ブロックを操作できるようにする。

【思・判・表】10 を単位として、(何十) + (何十) の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。

〈ノート・発言〉

・上記と同じように、問題文から加法の場面であることを理解できるようにし、 $86+23$  と立式できることを確認する。

・すらすらと答えが出た児童には、どのように考えたのかについて説明できるように促す。

・自力解決が進まない児童には、位取り表の上でブロックを操作し、数と対応させて考えるよう促す。

・ことばで唱えながら操作して考えるよう促す。

・位取り表を用いて、ブロックの操作をしながら、説明し合うように促す。

・自分と違う考えについて、何が違うのかを考え、話し合うよう促す。

・ブロック操作を通して、百の位に

<p>・筆算でやると、一の位が <math>6+3</math> で <math>9</math>。十の位が <math>8+2</math> で <math>10</math>。だから、<math>109</math>。</p>	<p>1 繰り上げることを確認する。</p>
<p>○たし算の計算の仕方をふり返り、ブロックや図で考えるとどんな計算になるかをまとめる。</p> <p><b>まとめ</b> ブロックや図で考えると、位ごとにかんたんにけいさんできる。</p> <p>○練習問題。一人一人の問題に取り組む。</p> <p>例 ・<math>90+70</math> ・<math>54+72</math> ・<math>86+54</math> ・<math>70+72</math></p> <p>○5つの観点の中から1つ選ばせ、振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかったこと ・解決方法 ・考えの変容</li> <li>・他教科や生活とのつながり ・新たなぎもん</li> </ul>	<p>・黒板にある数字を使って、自分で立式し、自分で答え合わせをする。</p> <p><b>【知・技】</b> <math>10</math> を単位として、簡単なたし算の計算ができる。</p> <p style="text-align: center;">〈プリント・発言〉</p> <p>・今日の学習を通して、わかったことやポイントを自分の言葉でまとめる。</p>

## 2 第2学年 単元名「かけ算（2）」

### (1) 研究主題とのかかわり

個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指して、本単元では、ペアで解き方を伝え合う時間として、相談タイムを設定する。全体で広げ深める学び合いの前に、ペアで話す時間を設定することで、全体で話す前に自信をもたせ、友達に話すことで自分の考えを整理し、深められるようにする。

まとめる場面では、板書のキーワードとなる言葉に注目できるようにし、児童から言葉を引き出してまとめていく。また、振り返る場面では、自分の成長の跡がわかるよう、「本時の学習内容」、「着目ポイント」、「思ったことや友達と話したことなど」の視点を明確にする。それを活用して児童一人一人の学習状況を把握し、次時の指導につなげる。

### (2) 単元の目標

○九九とその構成の仕方を理解し、6から9の段や1の段の九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式で表して答えを求めたりすることができる。（知識及び技能）

○かける数が1増えると、積はかけられる数分だけ増えることに着目し、九九を構成することができる。（思考力・判断力・表現力等）

○かけ算九九の構成に進んで関わり、振り返りを通して累加の簡素な表現としてかけ算の式にかくことや九九のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。（学びに向かう力、人間性等）

### (3) 単元計画（12本時）

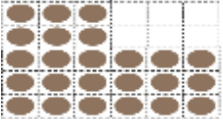
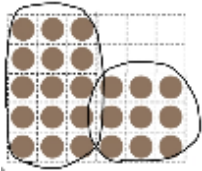
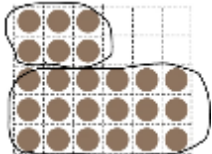
時間	主な学習活動
1	<p>○アレイ図を使ってかけ算を構成していくという単元の課題をつかむ。</p> <p>○6の段の九九を構成し、その唱え方を学習する。</p>
2	<p>○6の段の九九を用いて、適応問題を解く。</p>
3	<p>○7の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。</p>

4	○7の段の九九を用いて、適応問題を解く。
5	○既習をもとに8の段、9の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。
6	○8の段の九九の唱え方を練習する。
7	○9の段の九九の唱え方を練習する。
8	○基準量が1のときのかけ算の意味を理解し、1の段の九九を構成する。
9	○問題づくりを通して、かけ算の理解を深める。
10	○練習問題を通して、学習内容を確実に身につける。
11	○乗法と加法、乗法と減法が組み合わされた3要素2段階の問題を解く。
⑫	○同じ数のまとまりに着目して、L字型に並んだものの数を、かけ算を使って求めることができる。
13	○学習内容の理解を確認する。

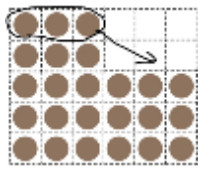
(4) 本時の目標

L字などに並んだものの数を、同じ数のまとまりに着目して、かけ算を使って求めることができる。(思考力・判断力・表現力等)

(5) 本時の展開

学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	留意点(・)【評価】手立て(→)
<p>○問題の把握。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">チョコは、ぜんぶで何こあるかな。</span></p>  <p>・チョコが入っていないところがある。</p> <p>○課題の把握。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">チョコの数をくふうしてもとめよう。</span></p> <p>○見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ数のまとまりをつくれればいい。</li> <li>・空いているところに、チョコを移動させる。</li> <li>・食べたところをひけばいい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型モニターを活用し、チョコの並びを左から徐々に提示する。一部ないことで、これまでの学習との違いを見つけられるようにし、本時のめあてにつなげる。</li> <li>・1つずつ数えるのではないことを確認する。</li> </ul>
<p>○自力解決。</p> <p>①左右に分けて考える。</p>  <p><math>5 \times 3 = 15</math>  <math>3 \times 3 = 9</math>  <math>15 + 9 = 24</math> 答え 24 こ</p> <p>②上下に分けて考える。</p>  <p><math>2 \times 3 = 6</math>  <math>3 \times 6 = 18</math>  <math>6 + 18 = 24</math> 答え 24 こ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこを「1つ分の数」と見たのかを○で囲むよう指示する。</li> <li>・1つの求め方を見つけたら、別の求め方を考えるよう促す。</li> <li>・schoolTakt にヒントコーナーを設ける。</li> </ul>

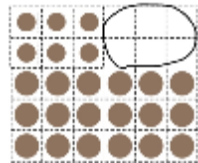
③動かして長方形にする。



$$4 \times 6 = 24$$

$$15 + 9 = 24 \quad \text{答え } 24 \text{ こ}$$

④全体から、チョコがないところをひく。



$$5 \times 6 = 30$$

$$2 \times 3 = 6$$

$$30 - 6 = 24 \quad \text{答え } 24 \text{ こ}$$

○考え方の交流。①1つ分の数②計算のしかた③答え  
3つの視点で話し合う。

①班で考えを説明し合う。

②全体で話し合う。

③共通点を確認する。

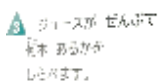
- ・まとまりをつくっている。
- ・かけ算を使っている。



○まとめをする。

同じ数のまとまりをつくと、かけ算でもとめることができる。

○適応問題を解く。P38の③に取り組む。



$$\textcircled{1} 4 \times 5 = 20, 20 + 2 = 22$$

$$\textcircled{2} 2 \times 6 = 12, 2 \times 5 = 10$$

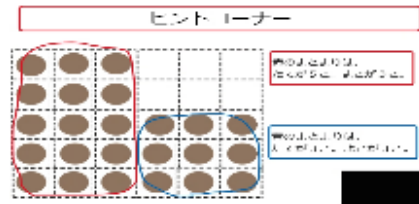
$$12 + 10 = 22$$

○3つの観点をそれぞれ振り返りをする。

①本時の学習内容

②着目ポイント (大切なきまり)

③思ったこと (気づいたことなど)



・「相談タイム」を設け、教師や友達に助言を求めたり、教え合ったりすることで理解を深める。

【思・判・表】L字などに並んだものの数を、同じ数のまとまりに着目して、かけ算を使って求めることができる。(観察・タブレット)

・3つの視点をもとに、話し合いを進めるよう指示する。

・それぞれの方法に名前をつけ、考え方を整理する。

・同じ数ずつの「まとまり」に目をつけて、かけ算を使って考えれば、L字型に並んだものの数を求められることをおさえる。

・板書のキーワードとなる言葉に注目するよう促し、児童から言葉を引き出してまとめていく。

・本時の内容を想起させ、自分の求めやすい方法で解くよう声掛けをする。

・いろいろな考え方について振り返るように声掛けをする。

## V 研究の成果と課題

### 1 成果

児童の変容を見とるためにアンケート調査を行った。(7月と12月、学級在籍児童27名)

図1 児童アンケート結果

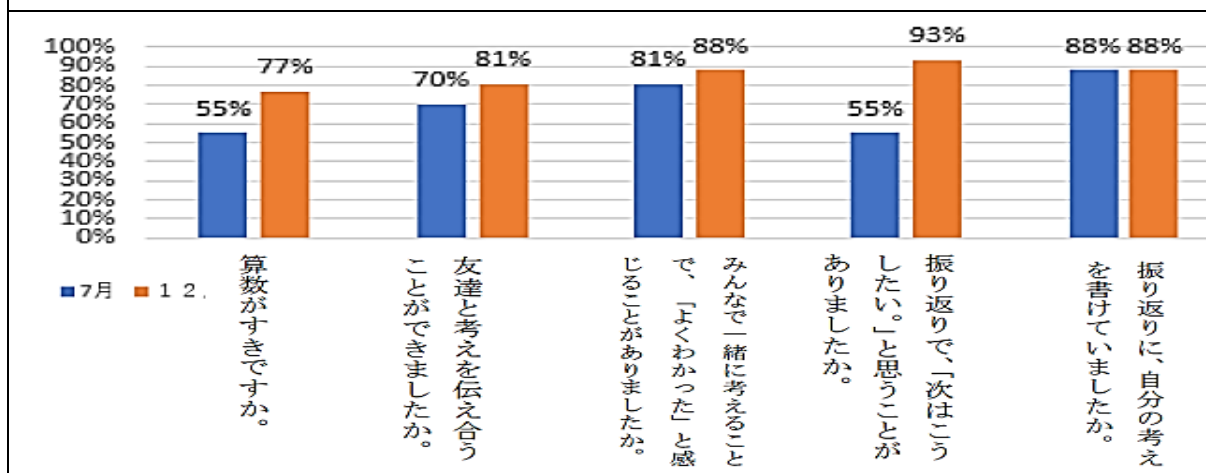


図2 問題を解いていて、わからない時は、どうしたいですか。

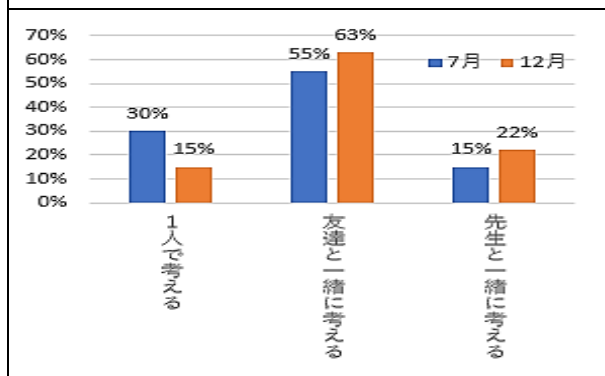
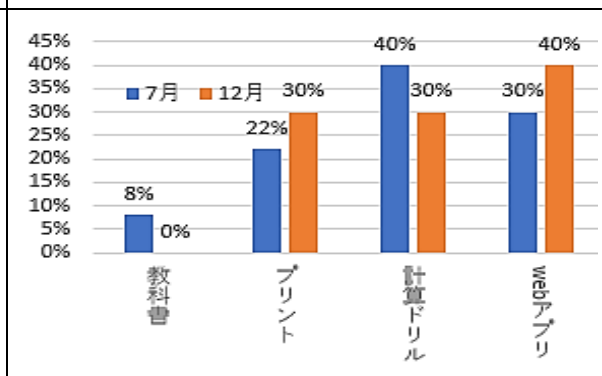


図3 自由進捗学習では、どの勉強がいいですか。



#### (1) 学習形態の工夫に関して

- ・児童が自分で課題解決の方法を選択できる環境を整えた結果、学びの主体性が高まり、積極的に学習に取り組む姿勢が見られた。
- ・児童一人一人の達成状況に応じて学習形態を選ぶことで、理解度に差があっても個別にサポートをする余地ができ、全員が理解を深めることができた。
- ・友達と一緒に考えることを好む児童の割合は、7月の55%から12月の63%に増加した。また、友達と自分の考えを伝え合うことができる児童の割合は70%から88%に増加した。この結果から、友達との協働学習に対して、より積極的になっていることがわかった。



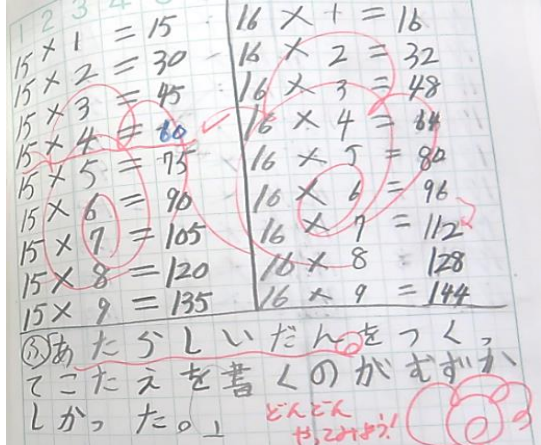
小集団で「先生と一緒に考える」場面



「友達と一緒に考える」場面

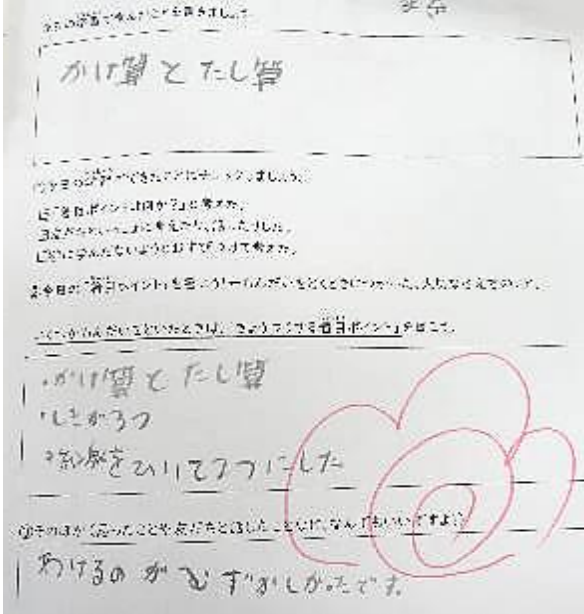
(2) 適応問題の工夫に関して

- ・自由進度学習を通じて児童一人一人の興味・関心を尊重した結果、算数への興味・関心や意欲が高まり、特にプリントでの学習やWebアプリを活用する児童が増加した。
- ・自分のペースで学べる環境が整うことで、「苦手な部分に集中する児童」や「得意な部分をさらに伸ばす児童」など、学習の個性化が進んだ。
- ・Webアプリなどを活用した授業は、楽しみながら学べるという点で児童に好評であったため、授業後の振り返りにも積極的に取り組んでいた。

九九ハチジュウイチ	適応問題を解く。
	

(3) 振り返りの充実に関して

- ・毎時間、振り返りシートに①今日の学習でやったこと、②着目ポイント、③思ったことや友達と話したことなどの3つの視点を意識して書くよう促した。その結果、「次は、こうしたい」と思う割合が、55%から93%に増加した。
- ・「着目ポイント」という名前で、本時の学習において働かせた数学的な見方・考え方を言語化するよう促した。その積み重ねにより、問題を解いて終わりとせず、大切な考えについて振り返りながら学習を進められる児童が増加した。

振り返りシート	振り返りシート
<p>月 日 ( ) 曜日 2年( )組 名前( )</p> <p>今日の学習でやったことを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>①今日の学習でできたことにチェックしましょう。</p> <p><input type="checkbox"/> 「着目ポイントは何か？」と考えた。</p> <p><input type="checkbox"/> 友だちと話し合いを考えたり、話したりした。</p> <p><input type="checkbox"/> 前にやった学習と必ず比べて考えた。</p> <p>②今日の「着目ポイント」を書こう！←もんだいをとくときにつかった、大切な考え方のこと。</p> <p>いくつかもんだいをといたときは、「きょうつうする着目ポイント」を書こう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>③そのほか(思ったことや友だちと話したことなど、なんでもいいですよ！)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	

## 2 課題

### (1) 学習形態の工夫に関して

児童がどのタイミングで友達と意見交換をするべきか、または先生と一緒に考えるべきかの判断がうまくできない児童がいた。

支援のタイミングや方法については、もう少し明確な指針を作り、困った時に選べる選択肢を具体化していきたい。例えば、「もし〇〇がわからなかったら、まずは〇〇の方法を試してみよう」というように、具体的なアクションを提示していく。

### (2) 適応問題の工夫に関して

自由進度学習の時間において、児童の選択肢が多すぎると逆に迷ってしまい、学習に集中できない児童もいた。また、Webアプリやドリルの使用が一部の児童には効果的だった一方で、興味を持たない児童には効果が少なかった。

学習ツールや方法を選択肢として提供する際、児童の学習状況に応じて選びやすくなるようなガイドラインを設けていきたい。例えば、基礎学力を身に付けたい児童は、ドリルやプリントに取り組み、応用力を試したい児童はWebアプリに取り組みなど、それぞれの学習状況に適したツールや方法を事前に伝えておく。また、児童の関心を引きやすい方法（例えば、ゲーム感覚の学習や動画教材など）を積極的に取り入れ、児童が「自分に合った学習法」を選択できるようにしていきたい。

### (3) 振り返りに関して

毎時間振り返りを行ったものの、学びと生活とのつながりを実感することができなかつたり、振り返りの内容が浅くなつたりしてしまい、深い学びに至らない児童もいた。

振り返りをより充実させるために、児童に対して具体的な問いかけを行ってきたい。例えば、「今日の学びが自分の生活や将来にどう役立つかな？」といった問いかけを行うことで、学びと日常生活を結びつける視点が持てるようにする。また、振り返りが深まるように、ペアやグループで振り返る活動を取り入れ、他者の意見を聞きながら自分の学びを深められるように工夫していく。

## 3 まとめ

個別最適な学びでは、児童が自分の学習進度や方法を選ぶことで自主性が高まったが、支援のタイミングや自由進度学習の方法、振り返り方や学習形態の選択について、改善が必要である。一方、協働的な学びでは、他者との意見交換を通じて学びが深まり、達成感やコミュニケーション能力の向上が見られたが、個別最適な学びとの調和が課題である。

本研究により、「個別最適な学びと協働的な学びをつなげることで、児童一人一人の学びがより深まる可能性がある」という示唆が得られた。ただし、両者をうまくつなげるための支援方法や活動計画には、さらなる工夫・改善が必要である。今後は、指導や支援の個別化をさらに充実させるとともに、振り返り活動やフィードバックを通して、学びの質をより一層高めていきたい。

## VI 参考文献

- ・加固希支男（2023） 小学校算数「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 明治図書
- ・埼玉県算数数学教育研究会小学校部会（2024）算数科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実第57集
- ・文部科学省（2017） 小学校学習指導要領解説 算数編 東洋館出版社

専門研究

## 体育科 専門研究部

研究主題

子どもと教師がともに創る体育授業の創造  
～関係の中で育つ児童を目指して～

上新井小学校

黒澤 駿介

指導者 埼玉大学

教授 石川 泰成

担当指導主事

長谷川雅一

本紀要に収録した黒澤駿介先生の研究「つながりの中で学び合い、運動好きな児童を育成する授業づくり — 高学年の器械運動（マット運動・跳び箱運動）の授業づくりを通して —」は、高学年児童を対象とした二単元の授業実践に基づき、協働的学習の構成方略およびその教育的効果を検証したものである。本研究は、体育科授業における学習者主体の学びの成立条件を明らかにするという点で意義を有している。

黒澤先生は、学級の学習状況として、児童の運動学習観が「教師の指示に従って決められた運動を決められた場所で練習する」という教師主導的枠組みに強く依拠していることを把握した。また、失敗回避的傾向が挑戦行動を抑制している状況を確認し、心理的安全性の確保および主体的学習の促進を授業改善の主要課題として設定している。

本研究で講じられた改善方略は、以下の三点に整理される。

第一に、児童間および児童と教師間の対話を活用し、思考の言語化と試行錯誤を促進する学習過程を設定した点である。

第二に、児童からの「単元を自分たちで構成したい」「評価に関わりたい」との要望を踏まえ、学習計画の策定を教師単独ではなく、児童との協働的構成へと移行した点である。

第三に、学習指導要領に示される「安定してできる」というパフォーマンス基準の意味について児童自身が検討する機会を設け、概念の共有を通して助言活動の質的向上を図った点が挙げられる。

実践の結果、児童の振り返り記述において、単元後半にかけて「仲間」「自分で」「試した」など、協働的・主体的学習を示唆する語彙が増加したことが確認された。また、運動が得意でない児童からは、練習環境や用具の選択を自ら行ったことが学習行動の促進につながったとする記述が見られ、自己決定機会の教育的効果を示す資料が得られた。

本研究は、体育科における身体活動が、自己調整力・社会性・感情調整力などの資質・能力の育成に寄与し得るという学習機能を実践的に検証している点で、現場における授業改善の貴重な一資料として位置づけられる。また、主体的・協働的学習の構成要素を単元構造の中で具現化した点において貢献を認めることができる。

授業デザインおよび実践内容の詳細は本編に記載されている。本研究の知見が、体育科授業の改善および協働的学習に関するさらなる研究の基礎資料となることを期待する。

先生のさらなるご活躍を祈念するとともに、明るく前向きに学びへ向かう児童の皆さんの健やかな成長を心より期待いたします。

## I 研究主題

「つながりの中で学び合い、運動好きな児童を育成する授業づくり」  
～高学年の器械運動(マット運動・跳び箱運動)の授業づくりを通して～

## II 研究主題について

現代の教育改革において、OECDは未来社会を生き抜くためのキー・コンピテンシーとして、「エージェンシー(行為主体性)」及び他者との協働によって発揮される「共同エージェンシー」を重視している(OECD, 2018, 2019)。これを受け、文部科学省は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を、令和の日本型学校教育を支える教育施策の柱として位置付けている(文部科学省, 2021)。

特に体育科においては、スポーツ庁が掲げる「安心・安全」「全員活躍」「多様性への配慮」を基盤とし、児童一人一人の特性や運動経験に応じた「個別最適な挑戦」と、仲間と関わり合いながら学びを深める「協働的な関わり」を両立させることが、将来にわたって運動やスポーツに親しむ豊かなスポーツライフの実現に不可欠である(スポーツ庁, 2020, 2021)。

体育科は、身体活動を通して、自己調整力、社会性、感情のコントロールといった資質・能力を育成することができる重要な教科である(文部科学省, 2018)。近年では、GIGAスクール構想の推進により、ICTを活用した映像による客観的な振り返りや、思考ツールを用いた他者との考えの共有が可能となり、探究的・対話的な学びを授業の中に実装する環境が整いつつある(文部科学省, 2021)。

体育科における「見方・考え方」とは、運動やスポーツの価値および特性に着目し、「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方と自己の在り方とを関連付けて捉えることである(文部科学省, 2018)。しかし、埼玉県における実態調査によれば、「体育の授業が楽しい」と感じる児童の割合は改善が見られてきたが、「運動好き」と感じる児童の割合に全国平均を下回っている(埼玉県教育委員会, 2024)。また、本学級でも学習意欲や自己調整に関わる「工夫して学習に取り組む」「他者を参考にする」「めあてをもって活動する」といった項目についても、低い傾向が示されている。

技能差が生じやすい運動領域の特性から、失敗経験が自己効力感を低下させ、挑戦や工夫を避ける行動につながりやすいことが指摘されている。また、一斉指導中心の授業では、児童が自ら学びを調整したり、仲間と学びを創りだしたりする機会が十分に確保されにくい。本学級でも、4月当初、体育の授業のイメージについて児童に投げかけると、「決められた運動を、言われた場所で練習するもの」という教師主導の授業というイメージが強いことを述べていた。

これらの実態から、児童が失敗を過度に恐れることなく挑戦できる「心理的安全性の確保」と、児童の主体性を引き出す授業への転換が、喫緊の課題であると考えられる。そこで本研究では、体育科の授業において、次の二点を主軸とした授業づくりを目指し、本テーマを設定した。

## III 研究の内容と方法

### 1 研究の方向性

研究仮説 児童がつながりの中で学び合える環境を設定すれば、運動の楽しさや達成感を味わうことができ、運動好きな児童が育つであろう。

手立て1 対話の中で試行錯誤できる学習過程の工夫(活動・振り返り)

手立て2 児童の学びを可視化し、課題解決を支える環境の整備(見通し・支援)

### 2 研究方法

- (1) 6月にアンケートを実施し、児童の実態を把握する。
- (2) 7月・10月・12月に検証授業を実施する。
- (3) 12月にアンケートを実施し、成果と課題を分析する。

## IV 実践事例

- 1 所沢市立上新井小学校 5年4組 31名 6月23日(月) 2校時  
 (1) 単元名 一人でクルン！みんなでクルン！！(器械運動・マット運動)  
 (2) 研究主題との関わり

### ①研究仮説

児童がつながりの中で学び合える環境を設定すれば、運動の楽しさや達成感を味わうことができ、運動好きな児童が育つであろう。

### ②研究の手立て

- 手立て1 「問い」を大切に、機能的特性が味わえる学習過程の工夫  
 異なる意見をもとに自己決定をしながら活動できる学習内容の工夫  
 手立て2 正しい知識のもと、評価ができ、見通しがもてる環境の整備

### ○ルーブリック型自己評価表

	Lv.1 スタート「B」	Lv.2 クリア「B+」	Lv.3 スーパー「A」	Lv.4 ウルトラ「S」
態度	安全に気を付けた。	何度も練習した。	仲間と協力して何度も練習した。	仲間とアドバイスをしながら練習した。
思考判断表現等	練習の工夫ができた。	めあてに応じて技を選んだり助言を取り入れたりして練習できた。	課題に応じて、助言を取り入れたり、技を高めたりできた。	課題に応じて練習を工夫し技ができた。 友達にアドバイスができた。
知識	技の名前がわかった。	技のポイントがなんとなくわかった。	技のポイントや安全な動きがわかった。	動き方や行い方、技のポイントを何度も仲間に伝えられた。
技能	技ができた。	技のポイントを意識して技の後にピタッと止まれた。	技の正確さや形が美しく、技の後、ピタッと止まれた。	技を美しく、スムーズにつなげてできた。
課題	5年で目指す技1つできた。	5年生で目指す技2つできた。	5年生で目指す技4つできた。	5年生で目指す技6つできた。

### (3) 単元の目標

- ①マット運動の行い方を知るとともに、基本的な技を安定して行ったり、発展技を行ったり、それらを繰り返し、組み合わせたりすることができるようにする。【知識及び技能】  
 ②自己の能力に適した課題解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- ③運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

### (4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①マット運動の課題や約束、用具の使い方や場の安全確保等、マット運動の行い方を理解している。 ②技の行い方やポイント、練習の仕方を話したり書いたりしている。 ③基本的な技や自己に適した技を行ったり組み合わせたりすることができる。	①技のポイントやコツをもとに自己の課題を見付け、複数の場の中から、自己の課題に適した場を選んでいる。 ②自己やグループで観察したり、学習カードやICT機器を活用したりして技のポイントやコツを発表したり友達に伝えたりしている。	①マット運動の基本的な技や発展技に積極的に取り組もうとしている。 ②学習の約束を守り、友達のサポートや称賛をしている。 ③場や器械・器具の安全に気を付けて、準備や片づけをしている。

(5) 単元の指導と評価の計画（6時間）

次	時間	ねらい	学習内容	○指導上の留意点 【評価】・評価方法
1	1	マット運動の学習のルールや進め方を知ろう。	○オリエンテーション ○目的と目標の確認 ・学習の進め方 ・ルールの確認 ・準備、片付け方法	○マット運動の行い方を理解させるために、骨盤から曲げて回る等、正しい動きを行わせる。 ○準備や片付けなど、正しくすばやくできる児童を称賛する。 【知・技①】【態度③】 <u>観察（行動・発言等）</u> ・マット運動の課題や約束、用具の使い方や場の安全確保等、マット運動の行い方を理解している。 ・場や器械、器具の安全に気を付けて準備や片付けをしている。
	2	5年生で行う技を確認し、できるようになりたい技を練習しよう。	○行う技の試技 ○視点（ルーブリック） ・技のポイント確認 ・ICT機器の使い方 ・比較の仕方	○技についての考えを伝えられるように技ノートを準備する。 ○実際に基本の技と発展技の演示を行い、見通しをもたせてから活動を行う。 【知・技②】【態度②】 <u>観察・学習カード</u> ・技の行い方やポイント、練習の仕方を話した地書いたりしている。 ・学習の約束を守り、友達のサポートや称賛をしている。
2	3	自分の課題にあった場を選んで練習に取り組もう。	○課題発見 ○課題解決の場の選択 ・課題を見付ける ・見る視点 ・技のポイントの確認 ・課題解決の為の練習	○ICT機器の動画を確認する。 ○課題が理解できない児童は、連続図を用いて一緒に考える。 【思・判①】【態度①】 <u>観察・学習カード</u> ・自己の課題を見付け、複数の場の中から、自己の課題に適した場を選んでいる。
	④	友達と課題を伝え合い、アドバイスをし合いながら練習しよう。	○課題解決 ○協働的な学び ・見る視点 ・技のポイントの確認 ・仲間の考えを認める ・学び合いの仕方	○場や用具を工夫すること、自分の課題が何かをわかるようにしておくことが出来るように声をかけたり支援したりする。 ○友達に考えを伝えられるように視点を明確にして声をかける。 【表現②】 <u>観察・学習カード</u> ・技のポイントやコツを発表したり友達に伝えたりしている。
3	5	できる技から技の組み合わせを考え、練習しよう。	○できる技での組み合わせ ○試行錯誤 ・技の組み合わせ方 ・組み合わせの例示 ・技の見直し	○できる技で組み合わせをするように声をかける。 ○試行錯誤の際にスムーズにできているか友達と確認する。 【知・技③】【態度②】 <u>観察・学習カード</u> ・基本的な技や自己に適した技を行ったり組み合わせたりすることができる。 ・学習の約束を守り、友達のサポートや称賛をしている。
	6	発表会を行い、友達のよいところを見つけ、伝えよう。	○発表会 ○考えを伝える ・見る視点 ・技のスムーズさ ・称賛すること	○技がスムーズにできている児童を称賛する。 ○発表会の仕方を自分で選択する。 【知・技③】【態度①】 <u>観察・学習カード</u> ・基本的な技や自己に適した技を行ったり組み合わせたりすることができる。 ・マット運動の基本的な技や発展技に積極的に取り組もうとしている。

(6) 本時の学習計画（4/6時）

①ねらいと評価規準

友達と課題を伝え合い、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

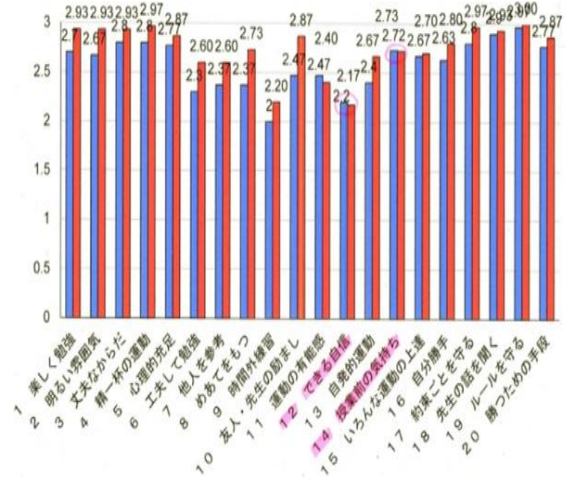
【思考力・判断力・表現力等】

②展開

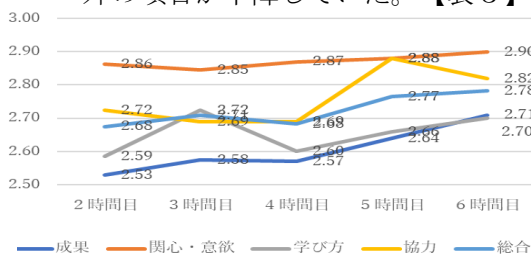
	学習内容・活動	指導上の留意点(○指導 ◆評価規準)
導入 7分	1 集合・整列・挨拶・健康観察をする。 2 上っ子体操をする。 3 補強 ①かえる足うち 20 回 ②かえる倒立 5 秒 4 用具と場の設定をする。	○服装を整え、気持ちよく学習を始められるようにする。 ○児童の様子や動きを確認し、健康状態を確認する。 ○一つ一つの動きを正しく行えるように積極的に声かける。 ○安全に正確に準備させることができるように声をかける。
展開 30分	5 慣れの運動 ①ゆりかごタッチ ②クールン(前転) ③クールン(後転) 6 本時のねらいを確認する  7 練習タイム ①Chromebook で動画撮影 ②練習の場を選んで練習する。 ③ポイントチェック(友達同士) ④ばっちりタイム(Chromebook 撮影) <b>【課題分析の視点】</b> 1. 首の操作 2. おしりの位置 3. 膝の伸ばし 4. 腕による押し放し 5. 体重移動 ※学び方についてはルーブリック評価をもとに学習を進めていく。	○場や用具を工夫すること、自分の課題が何かをわかるようにしておくことが出来るように声をかけたり支援したりする。 ○技についての考えを伝えられるように技ノートを準備する。  <b>◆自己やグループで観察したり、学習カードやICT機器を活用したりして技のポイントやコツを発表したり友達に伝えている。(観察, 学習カード)【思考・判断・表現】</b>  △努力を要すると判断させる状況(C)の児童への手立て ・相手の技が何の技か確認し、技ノートや連続図を確認する。 ・ICT機器で児童の試技を撮影し、動画を見て比べられるようにする。 ○十分満足できると判断される状況(A)の児童の具体的な姿 ・技のポイントやコツを分析の視点をもとに説明したり実際に動いて意見を伝えたりしている。 ○友達に考えを伝えられるように視点を明確にして声をかける。
整理 8分	8 場や用具などの片付けをする。 9 本時のまとめと振り返りをする。 10 整理運動をする。 11 次時の予告、健康観察、挨拶をする。	○本時のねらいに沿った振り返りが行えるようにする。 ○児童の様子を観察し、健康状態を確認する。 ○元気に挨拶をして、授業を終えられるようにする。

(7) 実践結果

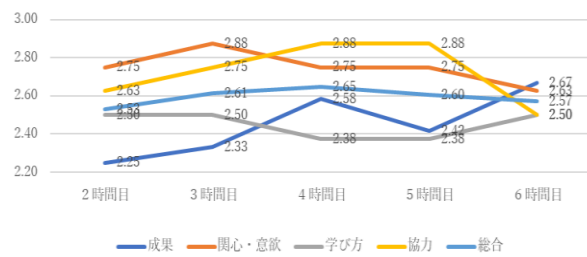
- ・診断的評価(青)と総括的評価(赤)を比較すると、多くのポイントが上昇した。しかし、「できる自信」と「授業前の気持ち」のポイントが下がった。【表1】
- ・系統性を踏まえ、ルーブリック型自己評価表を導入し、目標や達成度を可視化した。課題の解決に向けた取り組みを意識する児童が多かった。
- ・クラス全体の形成的評価は、上昇傾向であった。【表2】しかし運動が好きでない児童は、最後の第6時の発表の際には、「成果」と「学び方」の項目が上昇し、それ以外の項目が下降していた。【表3】



【表1】診断的評価と総括的評価



【表2】クラス全体の形成的評価 (6月)



【表3】運動が好きではない児童の形成的評価 (6月)

- ・問いを大切にした学習過程の中で、ルーブリック評価をもとに活動したことで、技の課題や成果の理由や助言等、考えて発言をする児童が多く見られた。
- ・自分で選んだ技の練習を行うことで関心、意欲は向上した。また、場や技を選び直す行動も見られた。しかし、一部の児童は、課題発見や場（教具）の選択ができないことが原因で、消極的な姿勢も見られ、クラスの「協力」や「学び方」の数値が下がった。
- ・技が身に付けられないことを実感すると協働的な学習が表面的になり、できない技に挑戦する回数も減っていった。



2 所沢市立上新井小学校 5年4組 32名 11月27日（木）

- (1) 単元名 自分の技を探究せよ！跳び箱の上でもより美しく！（器械運動・跳び箱運動）
- (2) 研究主題と手立てについて

研究主題：児童つながりの中で学び合える環境を設定すれば、運動の楽しさや達成感を味わうことができ、運動好きな児童が育つであろう。

前回、マット運動の内容で研究主題をもとに研究授業を行った。その際に、「単元を貫く問い」を設定する、異なる意見をもとに自己決定する機会を確保するといった手立てを用いた。しかし、児童が自分に合った課題発見や場の選択をすることができず、「協力」や「学び方」の項目における形成的評価が下がった。そこで、児童同士の対話だけでなく、児童と教師の対話を通して考えを明確にして試行錯誤を行う学習が展開できるように、手立てを「対話の中で試行錯誤できる学習過程の工夫」と変更した。

また、マット運動の研究授業では、ルーブリック評価を使って学習に取り組んでいた。しかし、「自分たちで単元を構成したい」「評価について考えたい」という意見が児童から出てきたため、教師が一方的に学習計画（単元計画や本時の流れ）を提示するのではなく、児童と一緒に構成した学びのプラン

【写真①】（大妻女子大学樺山教授考案）で学習計画を立て、提示した。



【写真①】

前回の手立てと今回の手立てについて

マット運動での手立て		跳び箱運動での手立て
①「問い」を大切にし、機能的特性が味わえる学習過程の工夫 ②異なる意見をもとに自己決定をしながら活動できる学習内容の工夫	→	①対話の中で試行錯誤できる学習過程の工夫（活動・振り返り）
③正しい知識のもと、評価ができ、見通しがもてる環境の整備	→	②児童の学びを可視化し、課題解決を支える環境の整備（見通し・支援）

(3) 児童が創る学びのプランから単元計画を構成

児童が班ごとに学習をデザインしてホワイトボードにまとめた【写真②】。そのまとめたホワイトボードを比較し、共通点と相違点を出し、クラスのプロジェクト班が整理し、付箋紙を使い、学習計画をまとめていく。さらに単元の問いを自分で選んだ「技の探究」とし、画用紙の色を変えて提示を行う【写真③】。

その後、教師が児童の考えた学習計画をもとに振り返りシートと一体になっている学びのプランを作成した【写真④】。児童が単元の問いとした技の探究（第3次）の学習過程は、色を変えて提示した【写真①, ④】。



(4) 「安定してできる」の定義化

学習を進めていく中、「できる」の基準を明確にする必要があると考えた。学習指導要領上の文言、「安定してできる」とはどういう状態かの問いを児童が考える機会を設けた。

児童と明らかにした「できる」の基準	「できる」基準を構造化したピラミッド図
	<p><b>「安定してできる」の構造化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安定してできる             <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでも、大きく、美しく</li> </ul> </li> <li>補助の仕方やポイントがわかる             <ul style="list-style-type: none"> <li>・支えてできる-ポイント</li> <li>・感覚を身に付ける-ポイント</li> </ul> </li> <li>なんとなくできる             <ul style="list-style-type: none"> <li>・たまたまできる</li> <li>・たまにできる</li> <li>・補助してできる</li> </ul> </li> </ul>

(5) 単元の目標

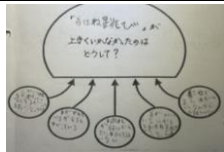
- ① 跳び箱運動の行い方を理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができるようにする。 【知識及び技能】
- ② 跳び箱運動についての自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを仲間に伝えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】
- ③ 跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り、助け合って運動したり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

(6) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 跳び箱運動の行い方について、話したり書いたりしている。 ② 自己の能力に適した切り返し系や回転系の技を安定して行うことができる。	① ICT機器を活用するなどして、自己の課題を見付けている。 ② 自己の能力に適した課題の解決しやすい学び方を選んでいる。 ③ 課題解決のために自己や仲間が考えたことを表現している。	① 跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ② 約束を守り、仲間と助け合ったり、場の安全に気を配ったりして運動しようとしている。 ③ 跳び箱の準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④ 仲間の考えや取組を認めようとしている。

(7) 単元の指導と評価の計画（7時間）

次	時間	ねらい	学習内容	○指導上の留意点【評価】・評価方法
1	0	学習計画を立てよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもつ</li> <li>・学習計画【見通し】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導上の留意点【評価】・評価方法</li> <li>○どんな計画にするか、友達に共有しながら考えを明確にする。</li> </ul>

	1	跳び箱運動の 行い方を知り、学習計画 を立てよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の進め方</li> <li>・準備や片付け</li> <li>・試しの運動</li> </ul>	<p>○試しの運動の際に、決まりを守れているかを確認する。</p> <p>【態度②】<u>観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約束を守ったり仲間と助け合ったり場の安全に気を配ったりしている。</li> </ul>
	2	自分の行いたい技のポイントを見付けよう。	<p>○ゴールと目標の設定【見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技のポイント</li> <li>・ポイントの見つけ方</li> <li>・試技の仕方</li> </ul>	<p>○自分が行いたい技と自分の実態を理解させ、目標設定が正しくできているかを確認させる。</p> <p>【知・技①】 【態度④】 <u>観察・学習カード</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行い方について話したり書いたりしている。</li> <li>・仲間の考えや取組を認めようとしている。</li> </ul>
2	3	自己の課題から「目標」と「学び」を決めよう。	<p>○学びのプロセス【活動】</p> <p>○ICT機器の利活用【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の技のポイント【活動】</li> <li>・学習方略【活動】</li> <li>・練習の場の選択方法【支援】</li> </ul>	<p>○ICT機器の活用方法の資料を見て確認する。</p> <p>○自分の探究する技のポイントを確認する。</p> <p>【思・判①】 <u>観察・学習カード</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を使ったり友達と関わったりして自分の課題を見付けている。</li> </ul>
	4		<p>○自己の課題把握【活動】</p> <p>○ICT機器の活用【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決を図る【支援】</li> <li>・場の選択の仕方【支援】</li> <li>・教具の効果【支援】</li> </ul>	<p>○クラゲチャートを用いて自分の動きを批判する。</p> <p>○解決するために学び方を選べるようにする。</p> <p>【思・判②】 【態度③】 <u>観察・学習カード</u></p> <p>※自分の課題を見付ける時間を取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力に適した課題の解決しやすい学び方を選んでいる。</li> <li>・準備や片付けを率先して行っている。</li> </ul> 
	⑤		【見通し - 活動 - 支援 - 振り返り】 解決できる場を選び、探究しよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び方を選ぶ【支援】</li> <li>・練習の行い方【活動】</li> <li>・ICT機器の活用【活動】</li> </ul>
3	6	技のよい点や改善点を友達と伝え合い、生かそう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の学び合い【活動】</li> <li>・仲間との関わり合い【活動】</li> <li>・ICT機器を使った分析【支援】</li> <li>・自己評価 → 他者評価</li> </ul>	<p>○技を行った後、出来栄を確認させる。</p> <p>○仲間と助け合いながら学習を進められるように声をかける。</p> <p>【知・技②】 【態度②】 <u>観察・学習カード</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技を安定して行うことができる。</li> <li>・仲間と助け合ったり、場の安全に気を配ったりしている。</li> </ul>
	7		<p>○技を行った後、出来栄を確認させる。</p> <p>○跳び箱を積極的に取り組んでいる児童を称賛する。</p> <p>【知・技②】 【態度①】 <u>観察・学習カード</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技を安定して行うことができる。</li> <li>・何度も出来栄を高めようと練習している。</li> </ul>	

(6) 本時の学習指導 (5 / 7時)

①ねらい

課題解決のために自己や仲間が考えたことを表現できるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】

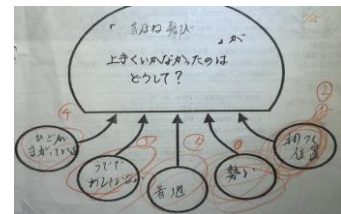
②展開

	学習内容・活動	指導上の留意点(○指導 ◆評価規準)
導入	1 集合、挨拶、健康観察をする。	<p>◎十分満足できると判断される状況(A)の児童の具体的な姿 △努力を要すると判断される状況(C)の児童への手立て</p> <p>○すばやく集合するように声をかけ、気持ちよく学習が始められるような雰囲気づくりをする。</p> <p>○跳び箱運動において特に使用する部位を丁寧に促す。</p> <p>○グループで役割を分担し、安全に留意しながらすばやく行わせる。</p>
7分	2 準備運動をする。 (首・手首・足首など)	
分	3 場や用具の準備をする。	

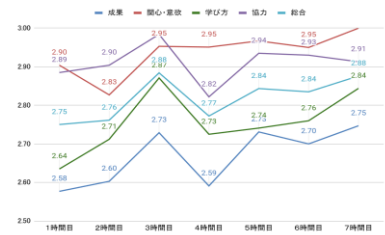
展開 30分	4 本時のねらいを確認する。	
	友達との対話を生かして、自分の課題を解決しよう。	
整理 10分	5 練習タイム ※以下1つ選択 ①開脚跳び ②かかえ込み跳び ③台上前転 ④伸膝台上前転 ⑤補助はね跳び ⑥首はね跳び ⑦頭はね跳び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体を温めるためにも質にこだわって運動に取り組む。</li> <li>○技を共有したり、技の系統を確認したりする。</li> <li>○児童の困り感を見とる。</li> <li>○表情がいつもと違ったり楽しめていないように見えたりする児童には、理由を問う。</li> <li>○試技を行い、自分の課題を再確認したり、自分の目標を調整したりする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆課題解決のために自己や仲間が考えたことを表現している。 (観察・学習カード)【思考・判断・表現】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>△努力を要すると判断される状況(C)の児童への手立て</li> <li>・連続図や系統表、動画資料を基に一緒に考える。</li> <li>◎十分満足できると判断される状況(A)の児童の具体的な姿</li> <li>・自己の課題の解決に適した練習の場を選ぶとともに仲間の課題解決へのアドバイスをしている。</li> <li>・自分の考えたことを整理し、仲間やグループに詳しく伝えている。</li> <li>○試技回数に制約をかけ、こだわって行わせる。</li> <li>○今日の試技を(2回まで)撮影し、自己省察する。</li> </ul>
	6 自分が決めた技の試技を行い、友達と助言を行う。【課題発見：見通し・支援】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路側：切り返し系 校舎側：回転系</li> <li>・ICT 機器は1回まで。</li> <li>・出来栄が高い動画の名前を変更して一緒に内省する。</li> </ul>
7 課題をもとに練習する。 【活動・支援】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に課題を伝えて試技。</li> <li>・見る視点(課題)はどこか</li> <li>・選ぶ(段数、場、調整板等)</li> </ul>	
8 今日の成果(試技)を行う。 【振り返り・活動】		
9 本時のまとめと振り返りをする。 【共通・相違】		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器や思考ツール等を活用し、どこまでできたか、課題は何かを振り返りに記述させる。</li> <li>○安全面に気を付けながら、すばやく行わせる。</li> <li>○本時で使った部位を、ゆっくりとした動作で行えるようにする。</li> <li>○怪我がないか等の声をかけ、表情や動きから健康状態を把握するとともに、落ち着いた雰囲気の中で学習を終えられるようにする。</li> </ul>
10 場や用具の片づけをする。		
11 整理運動をする。		
12 集合、健康観察、挨拶をする。		

(7)実践結果

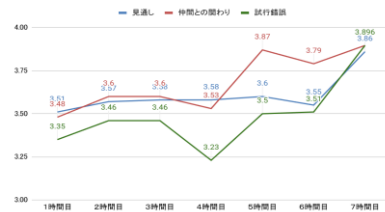
- ・自分で選んだ技に取り組むことで関心・意欲が高まった。クラゲチャートによる課題発見、プールスティックや自作の場の活用など、選択可能な環境を整えたことで、協働的に学ぶ姿が多く見られた。
- ・自己評価の低い児童も、練習回数が多く、助言をし合う等、学び方は良好であった。しかし、技能が向上する実感が得られず、自己評価が伸びにくい傾向であった。
- ・自己評価の低い児童は、技能面において課題を感じており、一斉の指導でなく個別の支援が必要であった。
- ・「手で押したら浮いた」「助走から踏切のタイミングが分かった」「〇〇さんの言葉でできた。」等、身体操作の感覚を言語化したり他者との関わりが学びに結びついたりする姿が見られた。その理由を聞くと、「対話の中で見本を見せてくれたから」「体のどこを意識すればいいのか、どう力を入れたらいいのかなど、具体的な助言をもらえたから」とのことだった。
- ・振り返りの記述で、単元の後半ほど、「仲間」「自分で」「試した」という協働的な学びを表す語彙が増えていた。また、運動が苦手な児童の振り返りで、自己決定の機会が増え、「場を変えたらできた。」「自分で練習に必要な用具や場、手立てを選んだら友達とたくさん練習できた。」という記述もみられた。



- ・クラス全体の形成的評価は6月のマット運動の授業よりも全体的に上昇し、学習過程における情動面・関係性面の安定と成長が見られた。また、課題解決に関連する、見通し・関わり・試行錯誤の形成的評価についても、授業前と授業後で上昇が見られた【表4】【表5】。
- ・跳び箱の「面白さや楽しさ」は、①出来栄への向上、②友達との学び、③探究的な取り組みの3点の内容が学習カードに記述されていた。
- ・「人と仲良くなるチャンス」は、2.68から3.00、「体育のグループでは進んで意見を言う」は、2.32から2.69と学び方に関する数値も増加した【表6】。
- ・思考ツールを用いて批判的思考を促した授業（5時間目）では、仲間との関わりが増え、試行錯誤の回数や発言量が増加した。



【表4】クラス全体の形成的評価 (11月)



【表5】見通し関わり試行錯誤の数値の変容

## V 成果と課題

### (1) 成果

本研究において「つながり」として定義した、単元間の系統性、学習者間の協働関係、学習内容の関連性という三層の視点は、児童が主体的に運動に取り組む姿を醸成する上で有効に機能した。技の完成度のみを追求するのではなく、難易度や練習方法、場を自ら選択・修正しながら学ぶ過程を重視した結果、振り返りには「場を変えたらできた」「自分で選び直した」といった自己調整を伴う学習行動を示す記述が多く見られた。また、形成的評価や振り返りの分析からは、仲間との関わりを基盤とした学び合いの質が次第に高まっていったことが確認できた。

定量的なデータにおいても、本実践の成果は顕著に表された。「運動好き」の平均値は4月の3.51から12月には3.90へと上昇し、全員が「好き」「どちらかといえば好き」と運動に対する肯定的な意識の高まりが確認された。種目別に見ると、マット運動は3.44から3.79、跳び箱運動は3.45から3.93へと推移しており、特に「つながり」を強く意図した跳び箱運動において大きな伸びが見られた。【表6】このことは、マット運動で構築した「知識を基に動きを見合う学習環境」を基盤に、跳び箱運動において対話を通じた試行錯誤へと学習過程が深化し、仲間との関わりの中で確信を伴う達成感が得られたことによる成果であると考えられる。

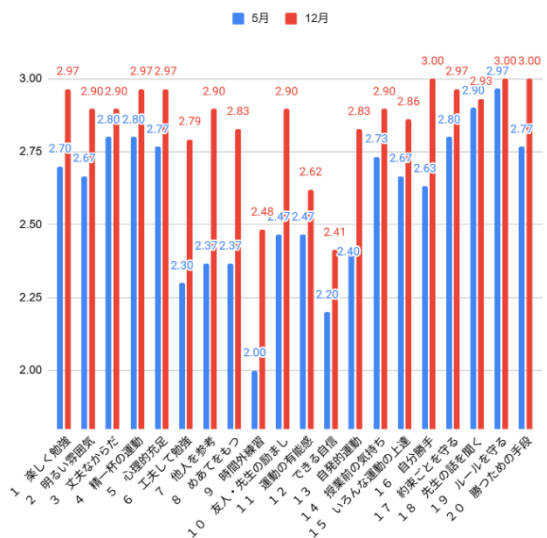
### (2) 課題と今後について

第一に、情意面で仲間との関わりが有効に機能した一方で、一部の児童において技能的達成に至らなかった点である。協働的な学習環境には適応しつつも、跳び箱運動特有の恐怖心や技能的障壁を乗り越えられない児童の存在が明らかになった。こうした技能的困難の背景には、課題の言語化の困難、他者からの視線への回避傾向、失敗への羞恥心といった課題が影響していることが考えられる。その結果、練習量は確保されているにも関わらず成功体験が更新されず、自己効力感が高まりにくい

内容項目	前	後
運動好き(4尺度)	3.51	3.90
マット運動が好き(4尺度)	3.44	3.79
跳び箱運動が好き(4尺度)	3.45	3.93
体育は、人と仲良くなるチャンス(3尺度)	2.68	3.00
体育のグループでは進んで意見を言う(3尺度)	2.32	2.69

【表6】意識調査アンケートの変容

### 診断的評価(5月)と総括的評価(12月)の比較



という負の循環が生じていた。今後は、個々の技能課題をより可視化するとともに、具体的かつ個別性の高い助言や補助を行う支援の在り方を検討する必要がある。

第二に、協力的に活動する姿は定着したものの、自ら問いを立て、仲間の学びを能動的に支える行動には個人差が見られた点である。教え合う環境への慣れが受動的な関わりにとどまる可能性を踏まえ、問いを立てる行為や仲間の学びを支える行動そのものを価値付ける指導の工夫が必要である。

第三に、成功体験の継続的な積み重ねにより、成長が「深く心に残る経験」として自覚されにくくなっている側面も否定できない。単元の終末には、学びの軌跡を振り返り、仲間との関係性の中で得た価値や自身の成長を再認識できる場を意図的に設定することが重要である。

今後は、①技能的困難を抱える児童に対する個別支援、②能動的な学び合いを促す価値付けの工夫、③成長の自覚化を促す振り返りの場の設定を統合的に位置付けることで、研究仮説をより確かなものにしていきたい。

## VI 参考文献

- OECD (2018) 「The Future of Education and Skills 2030: Education 2030 Framework. OECD Publishing.」
- OECD (2019) 「OECD Learning Compass 2030. OECD Publishing.」
- 文部科学省 (2021) 『令和の日本型学校教育の構築を目指して (答申)』
- 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 体育編』
- 文部科学省 (2023) 『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する資料』
- スポーツ庁 (2020) 『学校体育を通じた豊かなスポーツライフの実現について』
- スポーツ庁 (2021) 『誰一人取り残さない学校体育の推進』
- 埼玉県教育委員会 (2024) 『児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等に関する調査報告書』
- 白井俊著 (2025) 「世界の教育はどこへ向かうのか 能力・探究・ウェルビーイング」中公新書
- 本田由紀著 (2020) 「教育は何を評価してきたのか」岩波書店
- 大田堯著 (2013) 「教育とは何か」 岩波書店
- 樺山敏郎著 (2022) 「個別最適な学び・協働的な学びを実現する『学びの文脈』学級・授業・学校づくりの実践プラン」 明治図書
- 奈須正裕・伏木久始編著 (2023) 「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を目指して」 北大路書房
- 中山芳一著 (2018) 「学力テストで測れない非認知能力が子供を伸ばす」2018 年 東京書籍
- 木村明憲著 (2022) 「主体性を育む学びの型 自己調整、探究のスキルを高めるプロセス」 さくら社
- 木村明憲 他 2 名 (2024) 「メタ認知を促し学習を自己調整する手立てとしての『振り返りの型』の効果—小学校第 2 学年国語科の授業実践から—」教育メディア研究 30 巻 2 号 p. 41-53
- 溝口希久生著 (2020) 「社会構成主義の学習環境を視点とした授業構成による学び—保育者養成課程の身体表現活動を通して—」 和歌山親愛大学教育学部紀要第 1 巻
- ケネス・J・ガーゲン著 (2023) 「何のためのテスト? 評価で変わる学校と学び」ナカニシヤ出版
- 工藤勇一著 (2019) 「学校の『当たり前』をやめた。」 あさま社
- 工藤勇一他 (2023) 「子どもたちに民主主義を教えよう—対立から合意を導く力を育む」 あさま社
- 白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所「子ども学」編集委員会 (2025) 「子ども学 第 13 号」萌文書林
- 岩田靖著 (2024) 「体育の学習内容の探究 よい教材づくりのための知識・技術を掘り起こす」大修館書店
- 梅澤秋久著 (2024) 「ウェルビーイングを高める体育 すべての子どもの健康と幸福のための授業づくりに向けて」創文企画
- 高田彬成他 2 名編著 (2022) 「確かな学習状況を見取る 小学校体育の評価規準づくり」大修館書店
- 高橋健夫編著 (2022) 「体育授業を観察する 授業改善のためのオーセンティックアセスメント」 明和出版
- 鈴木直樹編著 (2022) 「体育授業の ICT 活用アイデア 56」 明治図書



専門研究

## 特別活動 専門研究部

研究主題

自分たちでより楽しく充実した学校生活を  
築こうとする児童の育成

所沢小学校

長廻 見空

指導者 玉川大学

教授 川本 和孝

担当指導主事

岡田 香代

## 特別活動 専門研究員の研究によせて

玉川大学 教授 川本 和孝

現在、中央教育審議会ワーキンググループ特別活動部会において、これからの時代にふさわしい特別活動の在り方が議論されています。その議論の底流にあるのは、「民主的で持続可能な社会の担い手をみんなで育む」という強い問題意識です。社会の不確実性が高まり、価値観が多様化する現代においては、あらかじめ用意された正解をなぞる力だけでは十分ではありません。他者と共に考え、対話し、よりよい解を創り出していく力が一層求められています。特別活動は、まさにその中核を担う領域です。教科の学習が主として知識や技能の習得を通して社会理解を深めるのに対し、特別活動は、子供たち自身が集団や社会の形成者として実際に関わり、自治的・実践的に生活を創っていく営みそのものです。そこでは、単なる参加や参画にとどまらず、対話を通じた合意形成や、責任を伴う意思決定が日常的に積み重ねられます。こうした経験こそが、民主主義を理念としてではなく、実感として学ぶ機会となります。とりわけ、学級活動(1)・(2)・(3)の役割は、改めてその重要性を増しています。(1)は、集団としての課題を話し合い、よりよい学級生活を創り出す営みであり、「みんなの民主主義」を体験的に学ぶ場です。(2)は、一人一人が自己の生活や行動を見つめ、自ら選び取る力を育む「個人の民主主義」の基盤です。そして(3)は、将来の生き方や社会との関わりを見据えながら意思決定する営みであり、「社会の中で生きる民主主義」へと接続していきます。合意形成と意思決定はいずれも容易な営みではありません。意見の違いや葛藤を避けず、互いの立場を理解しながらよりよい解を模索する過程には、時間と忍耐が求められます。しかし、その過程を丁寧に積み重ねていくことこそが、民主的で持続可能な社会を支える力を育てることにつながります。所沢市立所沢小学校の、長廻見空先生による2回の研究授業は、そうした合意形成と意思決定をいかに学級の中で育てていくかを具体的に示す実践でありました。

長廻見空先生の実践は、終始、児童との温かな関係性に支えられたものでした。先生の明るさと誠実さ、そして一人一人の子供に真摯に向き合おうとする姿勢は、日々の学級経営の中に確かに息づいており、その信頼関係が授業の土台となっていることを強く感じました。

1回目の研究授業は、学級活動(2)を通して、自身や他者の強みに目を向けながら、それぞれがもつリーダーシップの資質に関する観点を学び、認識を深めていく内容でした。抽象的になりがちな「強み」や「資質」を、子供たちが具体的に捉えられるように多様な工夫がなされており、活動の展開も丁寧に構造化されていました。何より印象的だったのは、子供たちが楽しみながら主体的に参加していたことです。互いのよさを認め合い、自分自身の在り方を見つめ直す姿は、まさに個人レベルでの民主性を育てる営みであり、自ら選び、考え、価値づけていく力の基盤を培う重要な実践であったといえます。

2回目の研究授業は、学級会「6-2 思い出プロジェクトをしよう」という議題のもと、卒業まで残り約4か月となった6年生が、これからの学校生活をどのように過ごすのかを話し合う時間でした。一人一人が自分の思いを言葉にし、友達の意見に耳を傾けながら、集団としての方向性を模索していく姿が見られました。形式的な話し合いではなく、これまでの積み重ねを背景に、真剣に合意形成へと向かおうとする姿勢が随所に感じられました。

今後は、こうした実践をさらに発展させるために、振り返り活動を一層定着させ、一連の学習過程を子供たち自身が自覚できるようにしていくことが期待されます。また、合意形成に求められる「立場形成」、すなわち一人一人が何を主張し、どこに考えの違いがあるのかを明確にする力や、互いの意見の背景にある思いや事情を理解しながら納得解を探っていく共感的理解を、段階的に指導していく視点も重要になるでしょう。長廻先生の持ち前の明るさと、児童を引きつける魅力を存分に生かしながら、さらなる実践の深化を遂げられることを心より期待しています。

## I 研究主題

「自分たちでより楽しく充実した学校生活を築こうとする児童の育成」

## II 研究主題について

グローバル化や情報化に伴い、急速に変化する予測困難な社会において、児童に求められる能力や身に付けさせたい力も様々になってきた。その中で注目されているのが、数値で測ることのできない「非認知能力」である。特別活動で育成すべき資質・能力は、まさに非認知能力であると考え。特に特別活動の目標の3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」は、数値で測ることのできない大切な能力につながる視点であるといえるだろう。児童は、学級や学年、学校といった集団の中で、多様な他者と協働することにより人間関係を形成することのよさを感じることができる。また、自ら学級や学校をつくっていきこうと進んで参画する態度を養うことができる。そして、その中でよりよくあろうとする心を育てることで、自己実現に向けて努力することができる。これらの資質・能力は、持続可能な社会の創り手となる児童にとって大切であると考えた。

本学年の児童は、落ち着いて学校生活を送ることができているが、どこか人任せになってしまうところが課題である。その原因として、新型コロナウイルスの流行によって臨時休校になっていた時に入学した学年であるとともに、当時は人と関わるのが難しかった上、特別活動の観点でも制限が多くかかっていたことが考えられる。そこで私は、特別活動の実践一つ一つを積み重ねることで学級の一員として、また、学校の最上級生として「自分たちの学級や学校は自分たちでつくる」という意識と、つくりあげるよさを感じてほしい。そして、卒業するときには「みんなと頑張ってよかった。このクラスで、この学校で良かった。」と心から言えるような一年にしてほしい。以上の理由により、研究主題を「自分たちでより楽しく充実した学校生活を築こうとする児童の育成」と設定した。

## III 研究の内容と方法

- 1 仮説①「学級活動（3）を中心に自分の強みを理解することができれば、集団や社会への自分の生かし方を考え、社会の一員として自分の役割を果たすことができるだろう。」

〈手立て①〉リーダーシップ論をもとに、自分や友だちのよさを分析し、自分の中の強みを追及することができるようにする。

〈手立て②〉行事や日々の活動毎に自分のよさの生かし方を考えられる機会をつくる。

- 2 仮説②「学級活動（1）で振り返りをもとに次の実践へつなげる一連の過程を大切にすれば、問題意識を共有して自分事としてとらえることができ、民主的な集団を築くことができるだろう。」

〈手立て①〉学級や集団の現状について、問題を引き起こしていることが何か自分たちで考え、要因を分析しながら議題選定を行う工夫をする。

〈手立て②〉実践後に振り返りをし、達成状況を共有できるようにする。

## IV 実践事例

### 1 学級活動（3）見つけた！わたしのリーダーシップ

#### （1）研究主題との関わりについて

本題材では、リーダーシップをリーダーのもつ能力とするのではなく、「誰かのために行動し、何らかの影響をあたえること」と考え、誰もがもっているものと捉えて活動を行う。人前で話したり、全体に声をかけたりすることだけがリーダーシップではないことは、学校のリーダーとなった4月、教師から話してきたが、アンケートでは、「自分にリーダーシップがあると思っている」と回答した児童は半分ほどであった。実施時期を9月とし、運動会という最大ともいえる学校行事を前に、自分のよさを見つめ直し、それを集団や学校生活で生かすことで、自己有用感を高めることを目指した。また、自分の役割を考えることで自分事として捉えることにもつながり、今後の活動でも自分の強みを生かした目標設定や取り組みができるようになることが期待できると考えた。そして、お互いのよさを考えることで、自分にもみんなにもリーダーシップがあり、みんなで集団を作り上げていくのだ、と前向きに考えることができるようにしたい。

#### （2）本時について

##### ①ねらい

自分の強みを理解し、集団の中での役割を果たすことについて具体的な目標をもって学校生活を送ることができるようにする。

##### ②事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿【評価方法】
・アンケートに記入する。	・年間指導計画で設定した題材について、関心をもって生活したり、問題意識を高めておいたりするために事前に予告しておく。	・自分や友だちの強みを考え、分析することで、自分のなりたい姿について真剣に考えることができる。（思考・判断・表現） 【アンケート調査】

##### ③本時

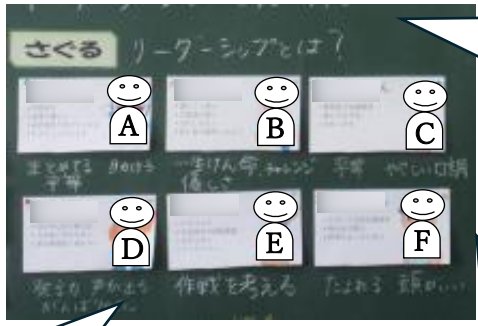
	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿【評価方法】
導入 つかむ	1 アンケートを基に、リーダーシップとは何か考える。	・アンケートの結果から、リーダー像はそれぞれ違うことを知るようになるようにする。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     自分にはリーダーシップがあると思いますか？                      とても思う…7%                      思う…46%                      あまり思わない…40%              思わない…7%                 </div>		

展開  
さぐる

2 リーダーシップとは何か考える。

・具体例をあげ、声をあげることや前に出ることだけがリーダーシップではないことに気付けるようにする。

各キャラクターは、どんなリーダーシップが発揮できるかな。



E はアイデアマンだから作戦を立てるときに活躍できそう。

B は優しくて勇気があるから…。

リーダーシップ=だれかのために行動し、何らかの影響を与えること  
必ずしも、みんなをまとめたり、前に出たりすることだけではない！

今までも、一人一人の活躍で学級が成り立っていたから、みんなそれぞれにリーダーシップがあるんだね。

見  
つ  
け  
る

3 自分の強みや友だちの強みを考える。

・リーダーシップとは、誰もがもっている能力であることを全体で共有する。

強みがたくさん書かれたワークシートを用意し、自分の強みだと思ふものに○をつける。

ワークシートを回して、友だちの強みだと思ふものに自分の名前を書く。  
〈手だて①〉リーダーシップ論をもとに、自分や友だちのよさを分析し、自分の中の強みを追及することができるようにする。

わたし ( ) の強み発見シート

元気があふれることや感傷ができる	誰とでも仲良くすることができる	自分の意見をはっきりということができる	まわりを笑わせたり、楽しませたりすることができる	困っている人を助けることができる
相手の話をしっかりと聞くことができる	ルールや時間を守って行動することができる	友だちを助ますことができる	給食をたくさん食べることができる	すみからすみまでいねいにそうじをすることができる
新しいアイデアを出すことができる	下級生に優しく接することができる	考えたことをすぐに行動にうつすことができる	まわりをよく見て状況を判断することができる	何事にも自分から取り組みることができる
情報を集めて物事の精度を上げていくことができる	苦手なことも強気強く頑張ることができる	自分の仕事に責任をもって取り組むことができる	誰にでも笑顔で、その場の空気を良くすることができる	細かいところまでいねいに取り組むことができる
多くの人と協力することができる	できるようになるまで努力することができる	何事も前向きにとらえることができる	色々なことに興味をもつことができる	目標をもって、それに向けて努力することができる
知りたい、わかりやいとおき進めていくことができる	相手の気持ちを考えたり、発言や行動ができる	今の自分に満足せず、もっと上を目指することができる	あわてず、落ち着いて行動することができる	計画を立て、継続して取り組むことができる
人からのアドバイスを受け入れて実行することができる	話中で、いつも元気に体を動かすことができる	生き物に優しく接することができる	その場の状況に応じて適切な対応ができる	問題をを見つけ、解決することができる
感受性が豊かで、人や物事に共感することができる	今何をすべきか落ち着いて考えることができる	人がやらない仕事も進んでやることができる	誰とでも公平に接することができる	初めてのことにも進んで挑戦することができる

・ワークシートに分析する。

・よりよく生きていくために、自分のよさや可能性に気づき、今できることに努力して取り組むことが大切であることを理解している。  
(知識・技能)  
【話合いの様子・発言】

わたしの強みは…  
自分だけが知っている強み  
その場の状況に応じて適切な  
対応ができる。  
友だちだけが知っている強み  
困っている人を助けることが  
できる。  
自分も友だちも知っている強み  
優しく接しられて笑顔でその場の空気をよくして  
仲良くできる。

わたしの強みは…  
自分だけが知っている強み  
色々なことに興味をもつ  
ことができる。  
友だちだけが知っている強み  
相手の気持ちと考えた発言や  
行動が出来る。  
自分も友だちも知っている強み  
下級生に優しく接することができる。

※本時では思った以上に児童がたくさん○を付けたため、分析が難しかった。改めて5つに絞ってつけることで分析することができた。

終末 決める

4 自分の強みをどんな風に生かすか目標を決め、ワークシートに記入する。

・自分自身の目標を確認できるようにし、具体的に決定できるようにする。  
・友だちとも交流し、吟味して自分に合った目標を再決できるようにする。

・なりたい自分に向けて、自分のめあてを意思決定することができる。  
(思考・判断・表現)  
【ワークシート②】

わたしの強みは…  
自分だけが知っている強み  
まわりを笑顔にまわすことができる。  
友だちだけが知っている強み  
まわりを笑わせた、楽しませる  
ことができる。  
自分も友だちも知っている強み  
活発で、いつも元気に体を動かすことができる。  
私はこんなリーダーになれそう！  
まわりを笑わせたり、まわりを笑顔にするリーダー  
そのためにこんなことを日々がんばります！  
そうしてかてもすみずみまでまかとする

わたしの強みは…  
自分だけが知っている強み  
人々のアドバイスを受け入れ実行  
することができる。  
友だちだけが知っている強み  
誰かをして笑わせ、その場の空気を  
良くすることができる。  
自分も友だちも知っている強み  
まわりをよく見て状況を判断することができる。  
私はこんなリーダーになれそう！  
自分の仕事に責任とめてまわりをよく見て状況を判断  
することができるリーダー  
そのためにこんなことを日々がんばります！  
いつも以上に自分の仕事に責任とめて、まわりをよく見かけるよな  
かんばります。

わたしのの中のリーダーシップを見つけ、がんばることを決めよう。

つかむ さぐる 見つける 決める

自分も友だちのリーダーシップも  
見つけよう。

①自分で火をつける  
②おでこ回す  
③自分で分析  
④友だち同様に分析

みんなの…  
たれがために行動し  
何らかの判断を要すること

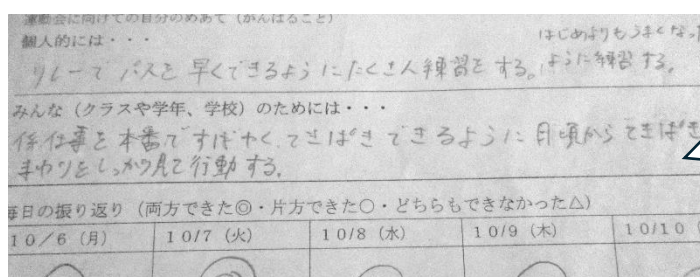
#### ④事後の活動

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿【評価方法】
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の立てた目標について振り返り、友達同士で取り組みを確認し合う。</li> <li>学校行事など、今後のことでも今回の活動を想起して目標設定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後に振り返る機会を設定したり、友達同士で目標や振り返りについて確認し合う場を設けたりして、お互いの頑張りを認め、励ましながら、実践の継続化を図るようにする。</li> <li>学級活動（3）運動会に向けてなどで、今回の視点を思い出すよう声掛けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の強みを生かしたりリーダーシップについて考え、意思決定した目標に粘り強く取り組み、これからの自分に必要なことを適切に判断しながら、進んで実践している。</li> </ul> （思考・判断・表現） <b>【振り返りカード、観察】</b>

#### (3) 授業後の活動

学級活動（2）や（3）目標にある意思決定の時、分析したリーダーシップを元に目標を立てることができるように声をかけた。ワークシートを学級活動ノートに貼り、常に見ることができるようにした。

〈手立て②〉行事や日々の活動毎に自分のよさの生かし方を考えられる機会を作る。



(3) 運動会に向けて  
「周りをよく見て進んで動けるリーダー」になれそうと書いた児童

## 2 学級活動（1）6-2 思い出プロジェクトをしよう

### (1) 研究主題との関わりについて

本議題は、「6-2 思い出プロジェクトをしよう」という、今後の学校生活で何をしていくかを決める話合いである。6年生での生活も残り4か月ほどになり、児童から色々なやりたいことが発信されるようになってきた時期であったが、その提案は一部の児童であり、その他の児童は学級会や実践の中での活動で主体的に取り組んでいるものの、提案者に偏りがみられた。児童の課題である「もっと自分事に物事を捉えてほしい」といった観点からも、みんなで今後やることを決めていきたいという部分から今回の議題が選定された。また、現実的に考えても残りの学級会の回数に限りがあることから、今回の議題で残りの学級会の議題をきめていくというものにつながっている。そのため、今回の学級会では話し合うことを1つのみとし、より自分たちが何をしたいのかについて深く考える話合いをさせたい。今までは三段階討議法で柱2つまたは3つで行ってきたため、より内容の濃い時間になることを期待した。児童がこの議題に期待することとして「みんなが楽しくて活躍できること」「6-2でよかった

と思える思い出づくり」などが挙げられた。みんなが楽しみ、クラス全体の思い出になるような集会や企画を考え、実践することを通して、互いの関係をさらに深め、認め合いながら、全員の愛着のある学級を目指し、悔いなく卒業式を迎えたいと考えた。

(2) 本時について

①ねらい

みんなが活躍し、楽しい思い出をつくるために何をするのかを考え、提案理由に沿った決定ができるようにする。

②事前の活動

月日 (曜日)	児童の活動 ○計画委員会 ●全員の活動	・指導上の留意点	・目指す児童の姿 【評価方法】
1 1 / 1 8 (火) 朝	○提案されている議題から、話し合う議題を選定する。 ⇒今回は全体にも声をかけ、どんな議題にするか考える	・今の6年2組に何が一番必要かを考えて議題を選定するように助言する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〈手立て①〉 今までの振り返りや課題から議題の選定をする。</p> </div>
帰りの会	○話し合うことを全員に知らせ、議題を決定する。	・計画委員の提案をもとに全員で決定する。	
1 1 / 1 9 (水) 朝自習	○提案理由を確認し、練り上げる。	・提案者と一緒に、学級の様子や何を目的に行うのか考えるように助言する。	
1 1 / 1 9 (水) 20分休み	○めあて、役割分担を決定する。 ○学級会ノートを作成する。	・提案理由に沿っためあてが考えられるように助言する。	
1 1 / 2 0 (木) 朝の会	○学級会ノートを配る。	・決まっていることが共通理解できるように必要に応じて助言する。 ・提案理由やめあて	

		に沿った意見が書けるよう助言する。	
1 1 / 2 0 (木) 宿題	●学級会ノートに記入する。	・学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話し合いへの意欲を高める。	・提案理由に沿った意見を考え、判断し、ノートに書いている。 (思考・判断・表現) 【学級会ノート】
1 1 / 2 1 (金) 20分休み	○全員の学級会ノートに目を通し、意見を整理する。 ○短冊を作ったり、分類分けしたりする。	・短冊にあらかじめ意見を書いておくなどの事前の準備が進められるように支援する。	・計画委員の役割、話し合いの進行の仕方等を理解している。 (知識・技能) 【活動計画・観察】
1 1 / 2 5 (火) 朝の会	●学級会ノートを受け取り、もう一度自分の意見を練り上げる。	・励ましの言葉を読み自信をもって発言ができるようにする。	
20分休み	○話し合いの進め方について確認をする。	・話し合いの見通しをもてるように意見を整理させ、まとめ方について助言する。	

③児童の活動計画と教師の活動計画

児童の活動計画	
日時	11月25日 (火) 3校時
議題	みんなの思い出に残る企画を考えよう 提案者
提案理由	今までの学級会で みんなで楽しいことをしてきました。6-2で過ごす時間はあと70日です。そこでみんなが活やくてきて楽しい思い出を作るために何をするかみんなが決めたことです。そうすることでみんながもと全て取り組める最終的には学級日誌でもなく笑顔で卒業できると思います。
役割分担	司会
	黒板記録
話し合いのめあて	みんなが活やくてきて思い出に残る企画を考えよう。 全員が自分の意見と話し合い全員が納得できるように話し合おう。
決まっていること	①残りの学級会は、6回 (2学期2回、3学期4回) ②実践・準備のために2学期は5時間(52回8ヶ月) 3学期は8時間

話し合いの順序	気をつけること	資料・時間
1 はじめの言葉	・自分なりにめあてを言う。	10:55
2 役割の紹介		10分
3 議題の確認		
4 提案理由の説明		
5 先生の話	・質問タイムをとってどのようなものなのかをみんながわかるようにする。 ・比喩合点とすてもめてかあたらさぬ。 ・全てしやうかいはにならないようにする。 ・決まったコメントを書く。(黒板) ・みんなの意見を聞けるようにする。(バランスよく指名) ・書き忘れがないように記録する(ノート)	11:05
6 決まっていることの確認		25分
7 話し合うこと ① 何の企画をするか (いつ行くか)		
8 決まったことの発表	11:30	
9 振り返り ・学級ノートへの記録 ・よかったことの発表		
10 先生の話		
11 おわりの言葉	10分	
		11:40

<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す児童の姿</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案理由をキーワード化し、決定の拠り所として全員で確認しやすいようにしておく。</li> <li>・提案者の思いや願い、学級全員の問題であることを確認する。</li> <li>・前回の学級会でよかったところと改善点を伝える。</li> <li>・比べ合うの前の共通理解の段階から進められるよう、事前に短冊を掲示し、内容について共通理解しておく。</li> <li>・司会が困っているときや、発言の方向がずれたとき、自治的活動の範囲を超えそうなときは、積極的に指導助言する。</li> <li>・提案理由を意識した発言や合意形成に向けた発言等はメモしておき、あとで具体的に称賛できるようにする。</li> </ul>	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが活躍し、楽しい思い出をつくるためによりよいものはどれか比べたり、工夫を考えたりしている。(思考・判断・表現)</li> </ul> <p>【観察・学級会ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の話し合いの経験を生かして、合意形成を図るための話し合いの進め方や約束を理解し、活動の方法を身に付けている。(知識・技能)</li> </ul> <p>【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが活躍し、楽しい思い出をつくるための企画を考え、判断し、話し合っている。(思考力、判断力、表現力等)</li> </ul> <p>【発言、学級活動ノート】</p>

#### ④事後の活動

日時	児童の活動	・指導上の留意点	・目指す児童の姿 【評価方法】
1 1 / 2 5 (火) 給食準備	・計画委員の振り返りをし、実践のために準備するものや決定した役割を確認する。	・教師から学級会ノートに頑張りを認める言葉を書いて渡すようにする。	・会の準備や集会に意欲的に取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【観察】
1 2 ~ 3月	・それぞれの集会の学級会の準備など	・全員が自分の役割に責任をもち参加できるよう支援する。 ・協力したり、工夫したりして活動している児童を称賛する。 ・それぞれの実践のふりかえりをし、次の実践につなげるようにする。	・集会の目的を考え、友だちと協力し責任をもって準備したり参加したりしている。 (思考・判断・表現) 【観察、学級活動ノート】
<p>〈手立て②〉 振り返りまでを同じワークシートで行う。</p>			
	<p>集会終了後、ふりかえりをする。</p>		

## V 成果と課題

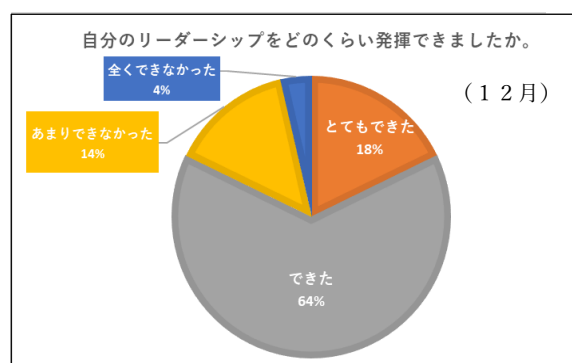
### 1 成果

#### (1) 仮説①について

- ・「さぐる」でリーダーシップについての定義をみんなで考えることで、自分にもリーダーシップがあると気づくことができていた。
- ・自分の強みを分析できたことで、その後の学校生活に生かすことができた。2学期にリーダーシップを発揮できた児童は「とてもよくできた」「できた」を合わせて80%を越え、自分事としてとらえる人が増えたように感じる。

#### (2) 仮説②について

- ・振り返りをもとに実践へつなげる一連の過程を大切にし、10回の学級会を積み重ねたことで、自分たちで学級を作り上げる意識が芽生え、「やってよかった」という経験の積み上げができた。



(3) 研究主題について

- ・1学期、あらゆる物事についてどのくらい自分事にとらえているかという質問に対して、高い確率を答えている人が増えた。

日頃の行動を見ている、自分たちで学級の課題を見つけたり、新しい取り組みをしようしたり、友だちのための行動が見られたりと、学級への愛着は増しているように思う。

今自分はあらゆる物事についてどのくらい自分事に捉えられていると思いますか。		
	1学期末	2学期末
80%	10人	➡ 15人
60%	18人	➡ 14人
40%	2人	➡ 1人

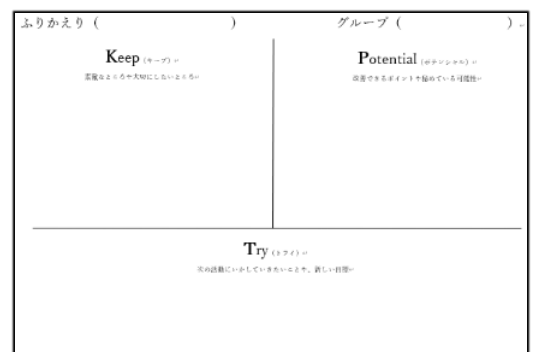
2 課題

(1) 仮説①について

- ・リーダーシップの授業を行ったのが2学期であったが、大きな行事や活躍の場面が終わってしまった部分もあったため、6年生の年度当初や5年生の年度末など、もっと前のタイミングで行うことができれば、リーダーシップを発揮できる場面がさらに増えたと考えられる。
- ・アンケートを見ると、まだ自分の強みをリーダーシップだと思えていない児童もいることがわかる。学級活動ではない場面でも、リーダーシップを発揮した場면을称賛し合えるような工夫が必要である。

(2) 仮説②について

- ・学級会の一連の流れとサイクルはよかったが、議題が児童の実態に合っていなかった。また、課題に対する要因分析も甘く、時間もなかなか捻出できなかった。そこで、議題の選定についてさらに勉強し、自分事になる議題を選定していくとともに、実践を繰り返していく必要がある。
- ・手立て②については、個人の振り返りを共有するところで終わってしまったため、来年度はKPT振り返りツールを利用してグループや学級での振り返りから次の課題や議題を見つけ、次の実践につなげていきたい。



KPT 振り返りツール

(3) 研究主題について

- ・玉川大学の川本先生から、最先端の御指導をいただいたことで、多くの課題が見えたため、本研究を生かして来年度の研究につなげていきたい。

VI 参考文献

- ・文部科学省（2018）「小学校学習指導要領 特別活動編」東洋館出版社
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 東洋館出版社
- ・埼玉県小学校教育課程指導・評価資料 埼玉県教育委員会
- ・みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編 文溪堂
- ・図解 玉川アドベンチャープログラム（TAP）を通したチームづくりの基礎 工藤亘 編著
- ・アドベンチャーと教育～特別活動とアクティブ道徳教育 工藤亘 編著